

東札幌三樹会病院における臨床統計

(第6報) 1985年外来新患統計

三樹会病院(院長: 丹田 均)

丹田 均*・加藤 修爾・大西 茂樹・坂 文敏
中 嶋 久 雄・毛 利 和 富CLINICAL STATISTICS ON OUTPATIENTS AT THE
UROLOGICAL CLINIC OF HIGASHI SAPPORO
SANJUKAI HOSPITAL IN 1985Hitoshi TANDA, Shuji KATO, Shigeki OHNISHI, Taketoshi SAKA,
Hisao NAKAJIMA and Kazutomi MORI*From Urological Clinic of East Sapporo Sanjukai Hospital
(Chief: Dr. H. Tanda)*

A statistical study was performed on new outpatients, the total number of which was 7,786 (male: 4,953, female: 2,833) in 1985. The male to female ratio was 1.75 : 1. They had urogenital diseases definitely diagnosed (6,786), undefinitely diagnosed (600), normal (260), and diseases other than urogenital (140), and 36.2% of them had been referred to us by other sources. On these outpatients 206 operations had been performed circumcision, resection of condyloma and vasectomy were representative. The peak of the age distribution was in the thirties for males and in the twenties for females.

For the first time in Japan, we treated renal and upper ureteral stones using extracorporeal shock wave lithotripsy (ESWL) on September 1, 1984. The results of ESWL at our hospital have been satisfactory.

A statistical study was made on new outpatients according to the international disease classification. There were 152 malignant (urogenital) tumors (2.1%). The major diseases of the new outpatients were cystitis (acute or chronic: 20.6%), upper urinary tract stones (19.4%), prostatitis (13.5%), benign prostatic hypertrophy (10.7%). In males the major diseases were prostatitis, upper urinary tract stones, benign prostatic hypertrophy, balanoposthitis, and phimosis, and in females they were cystitis, upper urinary tract stone, pyelonephritis, and renopositis.

We conclude that our hospital plays a major role as a private urological hospital.

Key words: Clinical statistics, Outpatients clinic

はじめに

1985年度の東札幌三樹会病院の外来新患統計を報告する(現三樹会病院1986年4月1日より)。

対象と方法

1985年1月1日より同年12月末日までの1年間に当院を受診した新来患者を対象とした。疾患分類は、第

1報¹⁾に準じた。

結果と考察

1. 外来新患数

新来患者数は7,786例で、男子4,953例(63.6%)、女子2,833例(36.4%)であった。男女比は1.75 : 1で前年度と全く同様であった。新来患者数は、昨年に比し896例増加した。また、紹介を受けた患者数は2,820例(36.2%)であった。

Table 1に、年齢層別の患者数を示した。男子で

* 現：札幌医科大学非常勤講師

Table 1. 外来新患の年齢層別性別分布 (1985年).

性別	0-10歳	11-20歳	21-30歳	31-40歳	41-50歳	51-60歳	61-70歳	71-80歳	81-90歳	91-100歳	合計
男性	418	345	850	918	671	706	559	384	97	5	4953(63.6%)
女性	110	226	572	461	451	557	301	141	14	0	2833(36.4%)
合計	528	571	1422	1379	1122	1263	860	525	111	5	7786

Table 2. 主な外来手術名と例数 (1985年).

手術名	206
環状切開	53
コンジローマ切除	49(うち女1)
精管結紮	34
嵌頓包茎整復	14
カルンケル切除	6
その他	50

Table 3 (1). 伝染病および寄生虫病.

	例数	男	女
016 性器系の結核			
腎結核	15	6	9
096 梅毒	9	8	1
098 淋菌感染	197	182	15
134.1 毛じらみ症	18	18	0
099 性器ヘルペス	18	18	0

Table 3 (2). 新生物.

悪性	例数	男	女
185 前立腺癌	38	38	—
186 睾丸腫瘍	10	10	—
187.0 陰茎癌	2	2	—
188 膀胱腫瘍	62	48	14
189.0 腎癌(Grawitz 腫瘍)	11	7	4
189.1 腎盂・尿管腫瘍	12	10	2
189.9 尿道腫瘍	3	2	1
182.2 子宮癌の尿路侵襲	7	—	7
胃腸系の尿路侵襲	7	2	5
良性			
222.1 外陰部コンジローマ	63	61	2
223.8 尿道ポリープ	5	2	3
尿道カルンケル	22	—	22

Table 3 (3). 内分泌・栄養・代謝の疾患.

	例数	男	女
257 睾丸機能障害			
(606) 無精子症	14	14	—
(XXY症例)	(2)	(2)	—
乏精子症	21	21	—
類官症			—
死精子症			—
血精液症	27	27	—
インポテンツ	22	22	—
270 チスチン症	3	2	1
高尿酸血症	7	6	1
V.精神障害			
306.6 夜尿症	50	31	19

Table 3 (4). 性器系の疾患.

	例数	男	女
580 急性腎炎	3	1	2
581 ネフローゼ症候群	9	4	5
582 慢性腎炎	26	15	11
584 腎の萎縮	7	4	3
590.0 腎盂腎炎	143	11	132
VUR	18	2	16
591 水腎症	40	19	21
592 腎および尿管結石			
腎結石	504	322	182
腎・尿管結石	57	37	20
尿管結石(経過も含む)	872	619	253
594 膀胱結石	25	22	3
尿道結石	9	9	0
腎杯憩室結石	16	7	9
尿管瘤結石	—		

Table 3 (5)

	例数	男	女
595 膀胱炎	790	33	757
59 亀頭包皮炎症	301	301	—
597.0 尿道炎	99	85	14
597.1 尿道・膀胱炎	747	17	730
598 尿道狭窄	57	55	2
600 前立腺肥大症	774	774	—
膀胱頸部硬化症	18	18	—
601 前立腺炎	997	997	—
(うち急性前立腺炎)	(12)		—
603 陰嚢水腫	56	56	—
604 睾丸炎(Mumps)	11	11(6)	—
副睾丸炎	117	117	—
(B:5,R:53,L:59)			
605 包茎(true)	164	164(2)	—
607 その他			
睾丸捻転	11	11	—
嵌頓包茎	20	20	—
睾丸垂捻転	2	2	—
陰茎硬結	8	8	—
	8	8	—

は31~40歳代がピークに、女子は21~30歳代がピークであった。また、男女とも51~60歳代にもう一つのピークを認め、山型を示し、このパターンは、今年度が初めてである²⁻⁴⁾。恐らく51~60歳のもう一つのピークは、泌尿器科学的検査を求めている受診者と、ESWLの治療受診者とが増加したためと考えている。

新患の内訳として、確診が6,786例(87.2%)、未診が600例(7.7%)、他科が140例(1.8%)、泌尿器科的

Table 3 (6). 先天異常.

752	性器の先天異常		
752.1	停留辜丸	32	32 (B:6,R:15,L:11)
	遊走辜丸	22	22 —
752.2	尿道下裂	1	1
752.8	傍尿道口囊腫	5	5 —
753	泌尿器系の先天異常		
753.1	腎囊胞	54	29 25
	囊胞腎	10	7 3
	海綿腎	5	3 2
	迴転腎	2	1 1
	骨盤腎	2	1 1
	馬蹄鉄腎	1	0 1
	重複腎盂(兼不完全重複尿管)	24	10 14
	(兼完全重複尿管)	1	1 0
	単腎症	3	1 2
7534	下大静脈後尿管	1	1 0
	尿管瘤	3	1 2
	腎下垂	91	8 83
	腎杯憩室(stones)	18(16)	8(7) 10(9)
	巨大尿管	16	
	尿管憩室		
	尿管狭窄	12	4 8

Table 3 (7). 不慮の事故.

		例数	男	女
E810	腎外傷	14	9	5
	尿道断裂 完全	3	3	—
	不完全	5	5	—
	辜丸打撲	2	2	—
	辜丸破裂	4	4	—
	陰莖損傷	6	6	—
	陰莖折症			—
	神経因性膀胱*	148	94	54
	瘻孔状態*	6	3	3
N939	性尿路系の異物			
	尿道異物	1	1	—
	膀胱異物	2	0	2
	陰嚢内異物 (陰莖)	2	2	—

Table 3 (8). 症状および診断名不明確の状態.

		例数	男	女
786	性尿器系に関する症状			
786.0	疼痛	156	83	73
786.1	尿閉	5	1	4
786.2	尿失禁	16	3	13
786.3	排尿頻数	59	35	24
786.5	乏尿・無尿(尿毒症)	42	24	18
	急性腎不全	5	3	2
786.6	不妊	21	21	—
788	浮腫	22	4	18
789	尿成分異常			
799.0	蛋白尿	37	21	16
	血尿	198	97	101
	腎出血	30	16	14

Table 4. 1985年度外来新患の主疾患.

主疾患	例数	% (1984年度%)
1. 膀胱炎(急性・慢性)	1522(20.6)	▼ (22.8)
2. 上部尿路結石症	1433(19.4)	▲ (12.9)
3. 前立腺炎(急性・慢性)	997(13.5)	▼ (17.0)
4. 前立腺肥大症(BNC含む)	792(10.7)	(10.1)
5. 龜頭包皮炎	301(4.1)	(4.3)
6. 淋菌性感染	197(2.7)	▼ (4.3)
7. 包莖	184(2.5)	(3.1)
8. 神経因性膀胱	148(2.0)	(2.5)
9. 腎盂腎炎	143(1.9)	(1.8)
10. 副辜丸炎	117(1.6)	(1.7)
11. その他 腎下垂, 陰嚢水腫, 膀胱腫瘍		

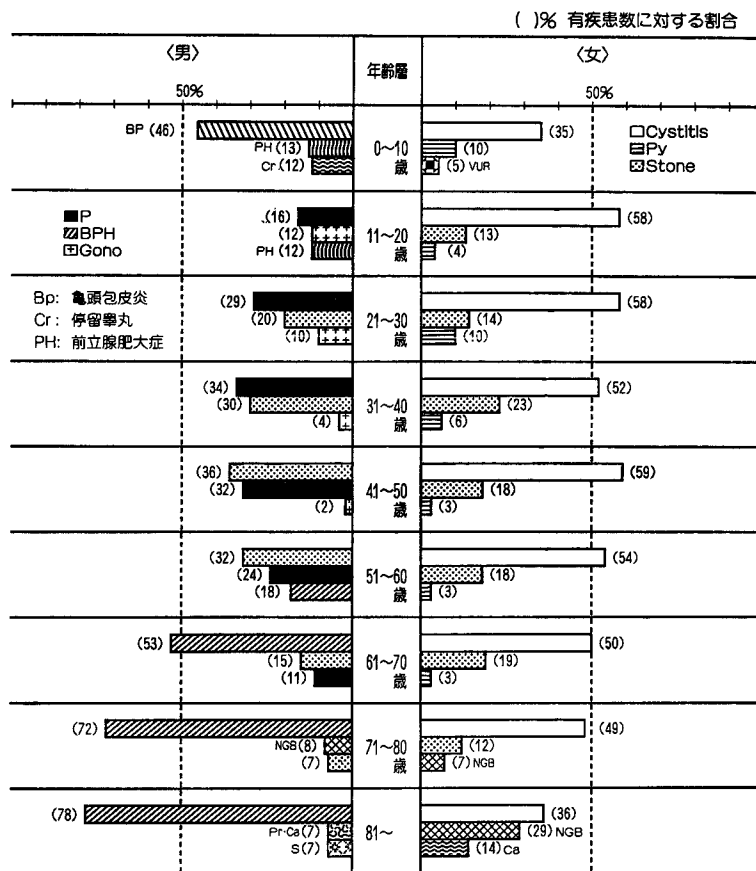
()%は有疾患数7386例に対する割合

Table 5. 1985年度新来患者男・女の主疾患.

(男)				(女)			
主疾患	例数	%	順位	主疾患	例数	%	
前立腺炎	997	(21.3)	1	膀胱炎	1474	(54.4)	
上部尿路結石	978	(20.9)	2	上部尿路結石	455	(16.5)	
前立腺肥大症	792	(16.9)	3	腎盂腎炎	132	(4.9)	
亀頭包皮炎症	301	(6.4)	4	腎下垂	83	(3.1)	
包茎	184	(3.9)	5	神経因性膀胱	54	(2.0)	
淋菌感染	182	(3.9)					

() %は有疾患数に対する割合
男：4674
女：2712

Table 6. 1985年度年齢層別にみた主疾患.



疾患を認めないものが260例 (3.3%) であった。

入院患者数は1,421例 (男1,040例, 女381例) で, 64.5%が紹介を受けていた。

2. 外来患者手術

外来患者手術数は206例で, Table 2 に示したごとく主なるものは, 環状切開, コンジローマ切除, 精管結紮術であった。

3. ICD に基づく1985年新来患者疾患統計 (Table 3(1)~(8))

Table 3 (1) に特異的感染症をまとめた。昨年度に比し淋菌感染は減少したが, 性器ヘルペス, コンジローマ, カンジダ症などが増加した。

新生物を Table 3 (2) にまとめた。前立腺癌38例はすべて腺癌であった。嚢丸腫瘍のうち1例両側性の embryonal ca. を経験した。全尿路系の悪性腫瘍を合わせると152例で, 有疾患数の2.1%であった。

嚢丸機能障害などを Table 3 (3) にまとめた。無精子症14例中2例に Klinefelter 症候群 (XXY) を

認めた。

性尿器系疾患を Table 3(4,5) にまとめた。腎結石 504例, 尿管結石872例で, 上部尿路結石は合計 1,449例になった。昨年度より約600例が増加した。これは, ESWL を導入した結果と考えている。その他, 主なる疾患は, 膀胱炎790例, 前立腺肥大症774例, 前立腺炎997例である。

先天異常を Table 3 (6) にまとめた。主なるものは腎嚢胞54例, 停留嚢丸32例, 重複腎盂24例, 嚢胞腎10例である。稀有な骨盤腎2例を経験した。

不慮の事故として, 外傷, 神経因性膀胱などを Table 3 (7) としてまとめた。尿道異物, 膀胱異物 (ビニール, 体温計など) はすべて内視鏡的に摘出した。

症状および診断名不明確の状態を Table 3 (8) にまとめた。血尿198例, 疼痛156例が最も多く, 尿路結石の疑いや尿路悪性腫瘍の精査による受診である。

ま と め

1. 1985年新来患者の主疾患は, 膀胱炎1,522例 (20.6%), 上部尿路結石1,433例 (19.4%), 前立腺炎997例 (13.5%), 前立腺肥大症792例 (10.7%) であった (Table 4)。

2. 1985年の新来患者の男・女の主疾患は, 男子では前立腺炎997例 (21.3%), 上部尿路結石978例 (20.9%), 前立腺肥大症792例 (16.9%) であった。一方, 女子では, 膀胱炎は1,474例 (54.4%), 上部尿路結石

455例 (16.5%), 腎下垂83例 (3.1%) であった (Table 5 参照)。

3. 1985年新来患者の年齢層にみた主疾患を検討した結果 (Table 6), 男子では31~50歳代は, 前立腺炎と結石症が中心で, 高年齢は前立腺肥大症が中心であった。女子では全年齢層にわたり, 膀胱炎が中心であった。

この論文の主旨は1986年2月15日, 第280回日本泌尿器科学会北海道地方会にて発表した。

文 献

- 1) 丹田 均・加藤修爾・大西茂樹・坂 丈敏・中嶋久雄: 東札幌三樹会病院における臨床統計 (第1報), 1983年度外来新患統計. 泌尿紀要 30: 1671~1676, 1984
- 2) 加藤修爾・大西茂樹・坂 丈敏・中嶋久雄・丹田均: 東札幌三樹会病院における臨床統計 (第2報), 開設より5カ年余の外来新患統計. 泌尿紀要 30: 1677~1684, 1984
- 3) 丹田 均・加藤修爾・大西茂樹・坂 丈敏・中嶋久雄: 東札幌三樹会病院における臨床統計 (第3報), 1984年度外来新患統計. 泌尿紀要 31: 1743~1749, 1985
- 4) 坂 丈敏・中嶋久雄・大西茂樹・加藤修爾・丹田均: 東札幌三樹会病院における臨床統計 (第4報), 開設より5カ年余の入院及び手術統計. 泌尿紀要 31: 1751~1759, 1985

(1986年4月23日受付)